

ヴァイオリン・プロジェクト 千の音色で「つなぐ絆」

命をつなぐ木魂（こだま）の会
会長 又川俊三

プロジェクト概略・発案・意義

このプロジェクトは、東日本大震災の被災者支援のために、ヴァイオリンドクターの中澤宗幸氏が発案者となり、被災地で生まれ育った木材でヴァイオリンを製作し、賛同する仲間たちがこのプロジェクトを実施するための組織「命をつなぐ木魂（こだま）の会」を作り、その楽器の演奏を通して被災された方を励まし、亡くなられた方に鎮魂の祈りを捧げることを目的としています。

ヴァイオリン製作に使う木材は、津波で無残に流され、瓦礫と化してしまった流木です。

震災前、家の床柱や梁に使われ、被災地で暮らす人々の過去が刻まれた木を弦楽器として蘇らせ、千人のヴァイオリニストがリレーのようにその楽器を受け継ぎながら、千の音色を奏でていくプロジェクトです。

日本の伝統には、心の底から願いを叶えたいときに行われてきた千羽鶴の慣習があります。

また、千手観音の千本の手は、どのような衆生をも漏らさず救済しようとする、観音の慈悲と力の広大さを表すといえます。

千年に一度の大震災ともいわれましたが、千という数字を、被災地で亡くなられた方々へ向けた無数の祈り、被災された方々の無数の希望として託しました。

そして、流木で作られた楽器は、この震災の体験が風化しないように永きにわたり、ヴァイオリニストからヴァイオリニストへと託されていく、人と人との絆のシンボルとなります。

演奏家が被災者の方々への祈りを込めて、それぞれの場所でそれぞれの音色を奏で、演奏家仲間に楽器をリレーしながら、絆の輪を広げていきます。

被災地で成長した子供たちが、この楽器を演奏するようになった時点で、このプロジェクトを一区切りとする予定です。

それまでには、楽器に千人の演奏家の音色が弾き込まれ、楽器自体が歴史を刻んで成長していくような長い時間を要します。

その間に、被災地域の環境整備も進むと思いますが、健やかな心の環境をも整えていくことにお役に立てることが、プロジェクト参加者の思いです。

こんな思いからヴァイオリンプロジェクトとジョイントし
東日本復興チャリティー講演とさせていただきます。